

事業実績報告書

平成30年度

学校法人 明浄学院

学校法人明浄学院

平成30年度事業実績報告書

法人の概要

建学の精神

『明(あか)く、浄(きよ)く、直(なお)く』の精神に則り、豊かな心と深い教養を備え、知性に輝く有為の人材の育成

主な沿革

- 1921.4 大阪府大阪市阿倍野区に「明浄高等女学校」を開校。
- 1947.4 「明浄学院中学校」設置。
- 1948.4 「明浄学院高等学校」設置。
- 1985.4 大阪府泉南郡熊取町に「大阪明浄女子短期大学（英語科）」開学。
- 1989.4 同短期大学に文芸科を増設。
- 2000.4 短期大学と共用敷地に「大阪明浄大学（観光学部・観光学科）」開学。男女共学。
- 2003.4 短期大学2004年度以降の入学生募集停止。
- 2004.4 主たる事務所を大学所在地に移転。
- 2004.9 明浄学院中学校廃止認可。
- 2006.4 「大阪観光大学」に大学名称変更。
- 2009.8 大阪明浄女子短期大学廃止認可。
- 2010.4 大阪観光大学に教職課程設置。
- 2013.4 大阪観光大学に国際交流学部を増設。
- 2017.4 大阪観光大学に別科を設置。

設置する学校 (H. 31. 4. 1)

- 大阪観光大学 観光学部・観光学科
国際交流学部・国際交流学科
- 明浄学院高等学校 全日制・普通科

学生・生徒数 (R. 1. 5. 1)

| | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 志願者 | 合格者 | 入学者 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|--------|------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 観光学部 | 130 | 15 | 550 | 378 | 178 | 168 | 168 | 164 | 165 | 130 | 627 |
| 国際交流学部 | 60 | 5 | 250 | 129 | 82 | 76 | 67 | 77 | 64 | 15 | 223 |
| 高等学校 | 140 | - | 515 | 163 | 163 | 89 | 90 | 122 | 171 | - | 383 |
| 計 | 330 | 20 | 1,315 | 670 | 423 | 333 | 325 | 363 | 400 | 145 | 1,233 |

高等学校は定員に替え募集人員。志願者・合格者に編入学は含まない。

教職員数 (R. 1. 5. 1) (契約教職員を含む専任)

| | 教育職員 | 事務職員 | 計 |
|------|------|------|----|
| 大 学 | 43 | 20 | 63 |
| 高等学校 | 32 | 3 | 35 |
| 法 人 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 75 | 24 | 99 |

役員等数 (R. 1. 5. 1)

| | 定数 | 現員 |
|-----|-------|----|
| 理事 | 9～12 | 11 |
| 監事 | 2 | 2 |
| 評議員 | 25～28 | 27 |

常勤の役員

| | | |
|------|-------|--------|
| 理事長 | 大橋美枝子 | |
| 常務理事 | 大塚哲也 | |
| 理事 | 赤木 攻 | 大学学長 |
| 理事 | 絵面功二 | 高等学校校長 |
| 理事 | 小林 進 | |
| 理事 | 小林孝広 | |
| 理事 | 山岡俊章 | |

非常勤の役員

| | |
|----|------|
| 理事 | 福本幸子 |
| 理事 | 佐藤憲雄 |
| 理事 | 長澤 彰 |
| 理事 | 牧野 光 |
| 監事 | 桝家小鈴 |
| 監事 | 見鳥信吉 |

校地・校舎 (H. 31. 3. 31)

| 区分 | 大阪観光大学 | | | 明浄学院高等学校 | | | 法人総計 | | |
|-----|-------------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|----|----------|
| | 大阪府泉南郡熊取町大久保南 5-3-1 | | | 大阪府大阪市阿倍野区文の里 3-15-7 | | | | | |
| | 専用 | 共用 | 計 | 専用 | 共用 | 計 | | | |
| 校地 | 45,419.17m ² | 0 m ² | 45,419.17m ² | 13,701.50m ² | 0 m ² | 13,701.50m ² | 59,120.67m ² | | |
| 校舎 | 16,493.42m ² | 0 m ² | 16,493.42m ² | 12,558.00m ² | 0 m ² | 12,558.00m ² | 29,051.42m ² | | |
| 図書館 | 蔵書総数 | 93,115 | 座席数 | 173 | 蔵書総数 | 28,338 | 座席数 | 64 | 121,453冊 |

(校地・校舎等は、すべて学校法人自己所有。蔵書には視聴覚資料等を含む。)

卒業者数等 (H. 31. 3. 31)

| 学 校 | 平成 30 年度 | 卒業者総数 |
|-----------------|----------|--------|
| 大 阪 観 光 大 学 | 149 | 2,138 |
| 明 浄 学 院 高 等 学 校 | 189 | 37,166 |
| 大阪明浄女子短期大学 | — | 5,427 |
| 総 計 | | 44,731 |

高等学校には、明浄高等女学校卒業の 3,868 名を含む。

大学卒業者への授与学位は、観光学部は学士（観光学）、国際交流学部は学士（文学）。

卒業者数と学位授与数は同数である。

過去の大学卒業者の就職率は次の通り。

| 卒業 | 平成 27 年 3 月 | 平成 28 年 3 月 | 平成 29 年 3 月 | 平成 30 年 3 月 | 平成 31 年 3 月 |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 就職率 | 96.4% | 95.6% | 85.1% | 96.5% | 99.2% |

平成 30 年度大阪観光大学事業報告

大阪観光大学は、「日本の玄関」として平成 6 年に開港した完全 24 時間運用可能の「関西国際空港」から最も近い大学であり、グローバル時代の要請に応えられる人材の育成を目指した観光学部と国際交流学部を有している。ただ、ここ数年来学生確保に苦戦を強いられた。とりわけ平成 25 年 4 月に開設した国際交流学部はその特徴（「和魂地球人」の養成）の社会への周知ができず、定員確保ができない状態が続いた。しかし、ながら、平成 28 年度より組織改革を断行（理事会、教授会、事務組織のが三位一体化）し、入試広報に全力を投入した結果、翌 29 年度から 31 年度の入学者数を充足することができた。今後は、さらに最課題である高大接続などにも重点的に取り組むことにより、安定した入学定員の確保を継続していく。

地域が求める観光人材やグローバル人材育成のために、大学においてはアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの一体性、整合性を図った。さらには、国際学術交流を図るため、国際基準に則ったカリキュラムを目指し、改革を進めた。アクティブラーニング、ポートフォリオ、スタジオ制など教育の質的転換の推進を並行して行った。また、高校と大学との連携をより深める高大接続を推進し、「7 年一貫人材育成計画」のモデルカリキュラムを開発した。

また、自治体、地域の産業界などを中心に地域社会と連携し、「地域のための大学」を前面に掲げ、地域を志向した教育・研究を通して社会貢献を推進した。「見せる・魅せる・おもてなし大学」として地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングを志向することを浸透した。

1. 質の高い教育の保証をする

- ① 大学教員の質の向上を図った。（科研費申請は 14 件の応募があった）
- ② 「社会人基礎力の養成」を基本方針に、「語学」「教養」「実学」を柱とする魅力ある教育課程（新カリキュラム）を導入した。アクティブラーニングの導入強化などの教育方法の改善に着手した。
- ③ F D・S Dの強化を行った。（公開授業・校務内容の改善・教育、学生支援や方法の向上）
- ④ 教育成果の可視化・評価の徹底のための指標の導入を検討した。
- ⑤ スタジオ制・成績優秀者の学修意欲促進制度を導入した。
- ⑥ I C T化を推進した。
- ⑦ 英語（語学）に特化した教育を推進した。（留学の推進・語学学習の強化）
- ⑧ 具体的目標に沿った科目外特別クラスを編成した。（エアラインスクール、各種資格取得、TOEIC 等）
- ⑨ グローバル人材育成のための環境整備を推進。平成 30 年度には、大学 8 校、その他教育機関 3 校の計 11 校の協定先を開拓。また、海外派遣留学生の事前研修プログラムを強化し、英語・中国語研修のほか、メンタルヘルス研修や危機管理研修も実施した。日本の伝統文化教育の充実・国際交流のため、浴衣の購入や茶室・茶道具のメンテナンス等も行った。
- ⑩ 高大連携の強化のための教職員交流を行った。

2. 入試広報・進路指導・就職指導の改善をする

- ① 本学のアピール力強化による、日本人学生・留学生の入学定員確保の継続を達成し、レベルの向上を図った。（HP・パンフレット・訪問先へのアプローチ内容の改善など）
- ② 高・大連携による生徒募集を行った。（留学生派遣による交流授業等出前授業の充実、教職員の交流、明浄学院高等学校 1 年生対象のオープンキャンパス実施、別科生対象の入試対策講座の実施）
- ③ 強化クラブ（硬式野球部・吹奏楽部・ダンス部）の充実と広報の強化を図った。
- ④ キャリアセンターの充実による就職・進路先の指導と確保。

- ⑤他校との差別化。(新カリキュラム・スタジオ制度のPR、CSJメソッドを基にした語学教育の徹底、留学制度の充実)
- ⑥別科(日本語学校)の充実。年間の別科定員を充足した。本学学部で年間で43名の入学を果たした。

3. 学生支援・施設設備の充実を図る

- ① 学生委員会の通常業務として下の項目を遂行した。
 - (ア)奨学金面接(日本育英会、ロータリー米山奨学会、平和中島記念奨学会、大遊協国際交流援助研究協会)を行った。
 - (イ)学校保健安全法に定められた学校感染症感染者の把握
 - (ウ)全学的避難訓練の実施その他、平成30年の改正健康増進法を受けて、学校校舎などの屋内全面禁煙の施行日が令和元年7月1日とする方針が決定されているが、学生委員会では喫煙室の建物外移設についての積極的な検討を行っている。また、邦人学生の海外渡航マニュアルの策定を行っている。
 - さらに、アクティブラーニングの設備充実を目指して、教室の再構築を検討するなど、積極的な対策を行っている。
 - 修学支援委員会は、平成30年度に『障がい学生に対する修学支援の基本路線とその内容について』のガイドラインを策定し、冊子を刊行した。
- ② 教育設備更新による教育設備の充実のため、計画を着手した。
 - ③ スタジオ制導入に伴い、スタジオ施設の整備を開始した。

4. 地域社会との連携を図る

- ① 一般社団法人大阪外食産業協会との連携により社会人・学生への公開講義を開講した。
- ① 大学コンソーシアム大阪で単位互換・一般市民に対応した大阪観光大学の学科目を開講した。
- ② 泉佐野市との共催で「国際空港とまちづくり」と題した国際シンポジウムを開催した。

平成 30 年度明浄学院高等学校事業報告

1. 生徒募集

平成 30 年度の入学者数は、122 名、3 学年総計は、480 名。

2. 教育改革

入学生の学力レベルのアップから、教職員全員が「高質な教育」を提供できるようにまずは意識改革に取り組んだ。

① 教育における共通目標の再認識と個別指導の取り組み

教務部・進路指導部が中心となり、在校生の学力を分析・解析し、主要教科を中心に学年・コース毎に授業展開・教授法を見直した。

特に、1 年生スーパー特進生徒は、学習・部活との両立・生活面のサポーターとして、メンター制度を導入。卒業までの 3 ヶ年を個別指導できるシステムを構築した。

しかし、諸問題から十分な機能を発揮できず、現在修正し今年度に成果を出したい。

② 生徒が自ら進んで学習する習慣を身に付けさせ、また充実した環境づくりに着手

特進コース生徒を中心に、Classi 機能を利用し、教科担当・担任より日々の課題の提供や自らの学力試験の結果を理解させることから、学力アップの意識づけをした。

また、自習室にチューターを導入し、いつでも気軽に自ら学習し質問対応できる環境づくりを実施した。

③ 総合的な教員力の引き上げを目指し、計画的な教員養成プログラムの実施

主に教授力アップを目指し、管理職による授業力評価とアドバイスを実施。また、学力試験を実施し、自らの学力を認識させ高質な教授が実践できるように促した。

3. 進路実績

本校の進路指導の在り方を抜本的に見直す 1 年間であった。従来の進路指導体制は「年内で進路指導を終えること」を目標にし、安易な進路選択を促している傾向が確認されていた。進路指導部を改革することにより、正確な大学入試状況の提供やセンター分析などが推進され、個人の学力や特性を把握した上での進路指導教育が展開された。

昨今問題化している専門学校の早期囲い込みは、受験生がキャリア選択の機会を喪失する場合もあり、指導する側も安易な選択をさせることに繋がるものとする。私学進路指導連盟との連携や他校の事例を情報交換し、新指導部主催で保護者説明会を開催するなどの啓蒙も行った。生徒個人が多様な進路選択と意思決定ができるよう教職員が一丸となり今後も研鑽を重ねていく。

[主な合格先]

龍谷大学（文学）1 名 関西外国語大学（外国語）3 名 京都外国語大学（外国語）1 名
同志社女子大学（学芸）2 名 武庫川女子大学（文）1 名 太成学院大学（看護）5 名
宝塚大学（看護）2 名 園田女子大学（看護）2 名 金蘭千里大学（看護）1 名
大阪観光大学（観光）1 名

平成30年度学校法人明浄学院法人本部事業報告

法人本部部門では、次のような事業を推進した。

(理事会・評議員会関係、人事、財務等の常例的業務を除く)

1. 平成28年度から令和2年度までの第4期中期計画(第2期5ヵ年経営改善計画)について、引き続いて明浄学院経営改善計画推進委員会及び作業部会により理事、教員、職員の三位一体で計画を執行し進捗管理し、文部科学省に年次報告した。
2. 前年度に引き続き学生・生徒増による収入増加策を補するために、一般的経費、奨学費及び人件費の削減策による支出削減を教職員の協力の下で実施し、平成30年度において資金収支は若干改善した。
3. 日本私立学校振興・共済事業団を通しての受配者指定寄付金及び一般の金募集を継続して実施した。
4. 前年度に引き続き、平成31年度の大学の入学定員を確保することができた。
5. 計画に盛り込んだ学院間(大学・高等学校・法人)の連携をより一層促進させる施策を支援した。
6. 東洋経済新報社刊「本当に強い大学 2019」において大阪観光大学が総合ランキング46位にランクされた。(同2018年版では25位)「THE 世界大学ランキング日本版 2018」において国際性ランキングで大阪観光大学が29位にランクされた。

なお、財務状況については、決算書及び決算の概要等を参照。